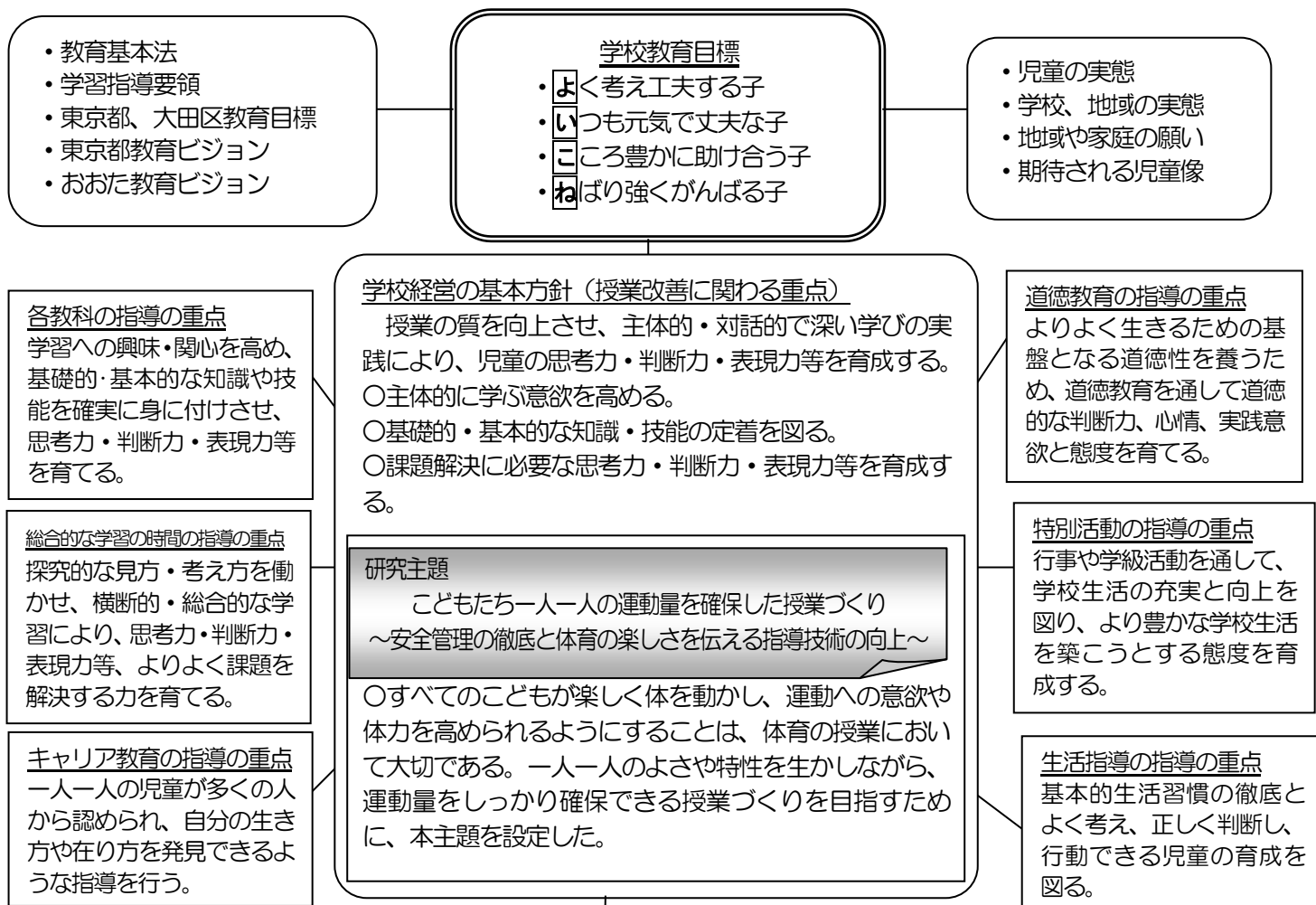


令和7年度【大田区立東調布第一小学校・授業改善を図るための全体計画】



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携	校内における研究や研修の工夫
- 学期ごとにその実施授業時数を見直すとともに、年3回の土曜授業を行うことで、時数の確保を図る。 - 算数科の習熟度別少人数指導を全学年で実施すると共に、東京ベーシック・ドリル、ステップアップタイム（補習教室）等を活用し、基礎・基本の充実を図る。 - 朝の時間を週1回読書活動の時間として活用する。 - 小中一貫教育に取り組み、共通の指導目標をもって教育活動を行う。 - 教科「外国語」を高学年は年間 70 時間、外国語活動を中学年 35 時間、低学年 25 時間実施し、言語に対する関心を高め、コミュニケーション能力を育成する。	- 校内研究・研修などを授業力向上の場とし、「運動量を確保した体育科の学習」に向けての授業づくりを行う。 - 授業改善推進プランを策定し、問題解決的な学習や体験的な学習を重視するとともに、基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせる。 - 体育朝会では、長なわや短なわ運動や低・中・高学年に分けた持久走などを行い、児童の体力向上を図る。 - ICT機器を活用し、効果的な指導を行う。一人1台のタブレット端末を使って、学習の個性化を図ったり、調べ学習で活用したりするなど、各教科等の指導において日常的に活用していく。	- 各教科とも評価規準及び評価基準を明らかにした評価計画を作成し、実践に役立てる。 - 基礎・基本の学習では、大田区学習効果測定の結果の活用を図りながら、個々の評価を行い、次の段階の指導に生かす。 - 教科の観点別評価内容については保護者会などを通じて学期ごとに保護者に説明を行う。 - 図工科の作品発表と鑑賞の場として、東一ギャラリー（展覧会）を隔年で実施する。今年度は2学期（11月）に行う。	- コミュニティ・スクール開設や保護者会などを通して、地域や保護者と連携を深める。 - 学校運営協議会を地域学校協働本部と協力し、地域の教育資源を生かした教育活動を展開していく。 「お話の会」（PTA）と連携し、読書活動の充実を図る。読み聞かせなど、各教室で計画的に行う。	「こどもたち一人一人の運動量を確保した授業づくり」というテーマで校内研究を推進する。一人一人のよさや特性を生かしながら、運動量をしっかり確保できる授業づくりを目指す。 - 年間4回の研究授業を行うとともに、日常的に授業を全教員が公開し、互いに参観し合う中で、授業力の向上を図る。 - 若手教諭育成のため、フレッシュ研修会を組織し、授業研究や研修会を通して、互いの授業力向上を図る。